

実践報告

平成 24 年度教員免許更新講習実践報告 —専門科目バレーボール—

The teacher's license update lecture practice report in 2012 —The special subject volleyball—

佐藤 亮輔 杉山 仁志
Ryosuke Sato Hitoshi Sugiyama

Abstract

A teacher's license update system was introduced from 2009 April 1st by the formation of the revision teacher's license law in June, 2007.

There was request from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology and the Saitama Prefecture school board, too, in the science and it implemented a teacher's license update lecture with third time in this year.

In the this report, it implements a questionnaire survey for the volleyball which was implemented as the special subject from the inside at the update lecture which was set about this year (2012) science.

It had a purpose of getting a necessary data from the result in the future of implementing a lecture when. In the future, it thinks that the things such as "making an attendance object clear" become necessary with the step of whether or not "to examine contents" or the participant recruitment.

キーワード：教員免許、更新講習、バレーボール

Key words : Teacher's license, update lecture, volleyball

I はじめに

平成 19 年 6 月の改正教育職員免許法の成立により平成 21 年 4 月 1 日から教員免許更新制度が導入された。

教員免許更新講習は、その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊厳と信頼を得ることを目的としている。

基本的な制度設計は、終了確認期限前の 2 年間に大学などが開設する 30 時間の免許状更新講習

を受講・修了した後、免許管理者に申請して終了確認を受けることが必要となる。

更新講習の受講対象者は、現職教員・教員採用内定者・臨時任用（または非常勤）教員リストに登録されている者・過去に教員として勤務した経験のある者などである。

更新講習を開設できるのは、大学・指定教員養成機関・都道府県教育委員会などであり、担当することが出来る講師は、大学の教授・准教授・講師または、教育委員会の指導主事などである。

更新講習の内容は、教育の最新事項に関する事項（12 時間以上）と教科指導、生徒指導、その他

の教育の充実に関する事項(18時間以上)であり、受講者の専門や課題意識に応じて、開設する講習の中から選択することとなっている。¹⁾

武蔵丘短期大学(以下「本学」とする)では、文部科学省及び埼玉県教育委員会からの依頼もあり、本年度で3回目の教員免許更新講習を実施した。

本報告では、今年度(平成 24 年度)本学において設定した更新講習の中から、専門科目として実施したバレーボールを対象とし、更新講習終了後に受講者にアンケート調査を実施した。

その結果から今後講習を実施していくにあたり、必要な資料を得ることを目的とした。

結果、①13名②13名③8名④5名⑤6名であった(図1)。

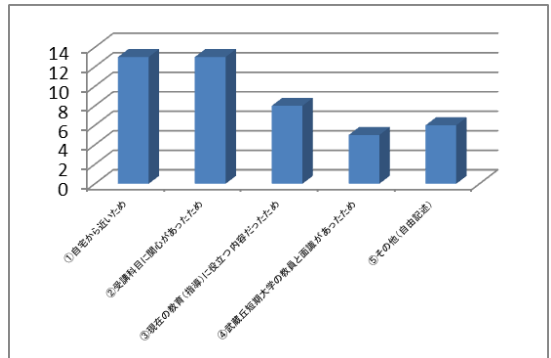


図1 受講理由

Ⅱ 調査方法

1. 調査対象

本学で開催した教員免許更新講習の中から、専門科目として設定したバレーボールを受講した24名。

2. 調査方法

更新講習終了後、受講者にアンケート用紙を配布した。

記入にあたっては、時間制限をせずに実施した。

講習内容4時限のうち、4時限目の試験を除いた3時限分について、それぞれの時間毎に記入できるようにアンケート用紙を作成した。

また、各項目に自由記述の欄を設け、受講者の自由な意見を引き出せるよう配慮した。

回答数は、受講者24名のうち24名(有効回答数100%)であった。

なお、⑤その他の記述には、以下のような内容が挙げられた。

- ・同僚の紹介(5名)
- ・日程的な条件であった。

2. 講習内容

講習内容をそれぞれの時限毎に下記の5項目で質問した。なお、項目選択の理由を自由記述とした。

1) 1限目(講義)

主な内容: 指導者の資質及び指導方法

- ①とてもよかった
- ②よかった
- ③あまりよくなかった
- ④よくなかった
- ⑤その他(自由記述)

結果、①14名②10名③0名④0名⑤0名であった(図2)。

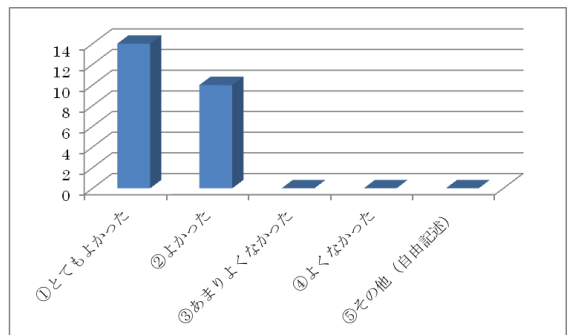


図2 講習内容(1時限講義)

Ⅲ 結果

1. 受講理由

本学で教員免許更新講習を受講した理由を下記の5項目で質問した。なお、複数回答を可とした。

- ①自宅から近いため
- ②受講科目に関心があったため
- ③現在の教育(指導)に役立つ内容だったため
- ④本学の教員と面識があったため
- ⑤その他(自由記述)

①を選択した理由としては、「感銘を受けた」が最も多く 6 名であった。次いで「話の内容が興味深かった」「勉強になった」「学校全体で取り組んでいることがわかった」などであった。

②を選択した理由では、「勉強になった」が最も多く 5 名おり、次いで「話の内容が興味深かった」「食と人とのつながりの大切さがわかった」などであった。

2) 2 限目 (実習・実技)

主な内容：レシーブ、トス、スパイク (3 段攻撃) における練習方法

- ①とてもよかった
- ②よかった
- ③あまりよくなかった
- ④よくなかった
- ⑤その他 (自由記述)

結果、①11 名②11 名③3 名④0 名⑤0 名であった (図 3)。

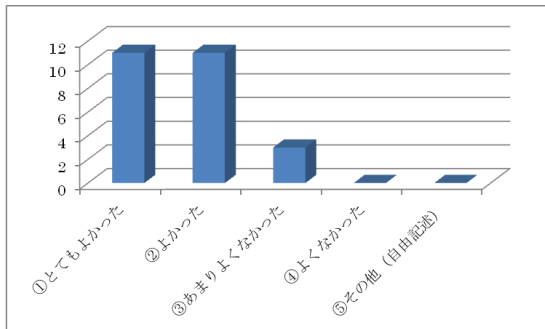


図 3 講習内容 (2 時限実習実技)

①を選択した理由としては、「学生が実際に動きを見せてくれたのでわかりやすかった」が最も多く 5 名。次いで「授業の参考になった」3 名。以下「初心者向けの指導方法が参考になった」2 名となった。その他「指導の行き詰まりが解消できた」といった意見もあった。

②を選択した理由では、「新しい技術を学べた」が最も多く 3 名。次いで「授業の参考になった」「学生が実際に動きを見せてくれたのでわかりやすかった」が共に 2 名であった。その他「部活指導において参考になった」「中学校の指導方法としてはレベルが高い」「全ての校種 (中、高、学習支援、定時制等) に応用できる説明もほしかった」

などであった。

③を選択した理由は、「授業では難しいが、部活指導では活かせると思った」や「もう少し受講者に実際に動いてもらった方がよかった」などであった。

3) 3 限目 (講義)

主な内容：スパイクスイングにおける理論

- ①とてもよかった
- ②よかった
- ③あまりよくなかった
- ④よくなかった
- ⑤その他 (自由記述)

結果、①11 名②12 名③1 名④0 名⑤0 名であった (図 4)。

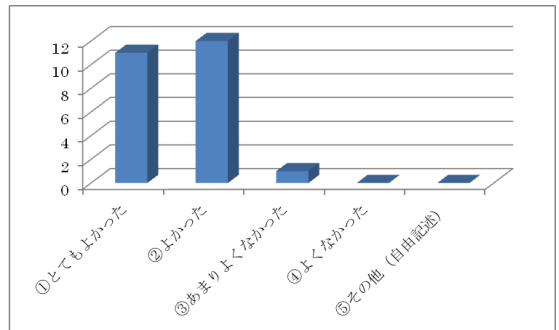


図 4 講習内容 (3 時限講義)

①を選択した理由としては、「スパイクの打ち方について専門的に学習できた」が最も多く 4 名。次いで「専門性の高い内容で、今後の指導に役立てたいと思った」が 3 名であった。その他「資料を中心にスパイクのスイング、バックスイングの分類など理解しやすかった」などであった。

②を選択した理由では、「スパイクスイングに関する理論を勉強でき、とても参考になった」が最も多く 5 名。その他「何となくは理解していたような内容が、講義を聞きながら頭の中が整理された気がした」、「部活動の指導、特にケガをさせないという面で参考になった」、「滅多に見ることのない大学での研究に触れられたことが良かった」、「スパイクのスイングの仕方が何通りもあり、選手の特徴や能力によってスイングの方法が変わる事がよくわかった」、「パワーポイントで分かりやすいが、もう少しその場で実践できることがあつ

てもよいのかと思った」、「それぞれのメリット、デメリットとどのような生徒、選手に有効なのかを加えていただけると授業でも利用できると思った」、「授業でも簡単に出来ることをもう少し教えてほしかった」などであった。

③を選択した理由は、「パワーポイントで分かりやすいが、もう少しその場で実践できることがあったもよいのかと思った」という意見であった。

3. 講習内容

今回の教員免許更新講習（専門科目バレーボール）を受講して、全体的にどのような感想を持ったかを自由回答で質問した。回答の内容は以下のとおりである。

- ・長い間、高校バレーの指導に携わってきて、最近はなかなか新しいことを勉強しようというような気持ちもなく、自分の中での創意工夫の内容でやっていたが、今回は色々な練習方法や指導法を教えていただき大変参考になった。
- ・退職まで残すところ数年となってしまった今、有終の美を飾れるよう、心機一転また頑張っていかなければという気持ちになった。
- ・この講習（バレーボール）が一番内容も充実していて意義のある一日だった。
- ・初心者向けに少し参加型の実技講習があれば良かったと思った。
- ・もう少し実践の時間がほしかった。
- ・特に実技では、資料内容を一つ一つ丁寧に説明し、学生にモデルになって教えていただき、大変勉強になった。この実技講習で得たことをこれからの授業に生かしたいと思った。
- ・残り少ない教職にある者にとっては、体を気遣っていただき丁度良い内容で助かった。
- ・普段、自分が見ているバレーボールと違う視点で実技、そしてスパイクスイングの考察と、興味のある内容を取り上げていただいたことは大きなプラスとなった。
- ・学長主催の昼食会のおかげで、午後への活力をもらうことができた。
- ・学長の講話から始まり、実技、スパイク理論と、とても充実していた。ただ、一つ注文すると、実技においてももう少し体験できたらと感じ

た。聞くだけではすぐに忘れてしまうが、実際に体験することで子どもへの指導にも生かせるものだった。

- ・暑い体育館内での実技だったため、ご配慮いただき今回は見学という形で参加させていただいたが、実際に私達が授業を受ける側（生徒）として参加できないかと思うところがあった。
- ・今回はスパイクスイングに関して講義をしていただいたが、オーバーパス、アンダーパス、サーブについても今後取り入れていただきたい。
- ・三日間他の大学で更新講習を受けて、今回初めて武蔵丘短期大学でお世話になりましたが、先生方、職員の皆様のお心遣いに驚くことが多く、来年もまた参加させていただきたいと思える講習であった。
- ・本日のバレーボールの講習は、この五日間の中で一番充実していた。少し体を動かしても良かったと思ったが、バレー部の皆さんがいきいきと良い手本を見せてくれたので、とても勉強になった。
- ・学長のお話から、体験、わかりやすいポイントを絞った講義、まとめと、とてもわかりやすく過ごせた一日だった。
- ・先生方をはじめ大学のスタッフの皆さん、学生さん、大学設備等々とても素晴らしく、五日間気持ちよく学べたことに大変感謝している。学校とはこういう場でなくてはいけないと痛切に感じた。
- ・バレーボールは私自身が苦手であり、指導方法もワンパターンになりがちだった。今回の講習に期待をして臨んだが、期待以上の収穫であった。今回教えていただいた「手」「脚」の作り方から丁寧に教え、バレーボールの楽しさを伝えたいと思った。
- ・高校の授業を展開していくうえで、初心者からレベルの高い子までの差がある中で、応用できる講習内容がたくさんあったので参考にさせていただきたいと思った。
- ・選手育成は、「食事を多くとる、トレーニングをしっかりと行う、休養をしっかりとる」ということだが、高校の現場では様々な家庭があり、なかなか難しい面があるが、今後家庭との連携

を密にとり、実践していきたい。

IV 考察

アンケートから、質問項目1の本学で受講した理由では、「自宅から近い」と「受講科目に関心があったため」の2つが最も多い結果であった。

まず、「自宅から近い」とについては、中学・高校の教員が夏休み中であっても激務であり、遠方まで研修に行く時間がないため、自分の母校等より自宅に近い本学を選んだことが推察される。「受講科目に関心があったため」とについては、多くの教員が専門で行ってきた内容以外の担当となり、指導にあたっての知識、技能を高めたいと考えていることが推察される。「現在の教育（指導）に役立つ内容だったため」も3番目に多い回答だったことからそのことが伺える。

次に、「本学教員と面識があったため」が5名と回答では一番少なかったが、その他を選択した回答の記述において、同僚の紹介が数名あった。つまり、直接的でなくとも本学の教員が、中学・高校の教員と何らかの関わりがあることが講習先に本学を選択した要因となったことが考えられる。

質問項目2の1) 講義(1限目、指導者の資質及びその指導方法)では、「とてもよかった」が最も多く、次いで「よかった」の順であった。項目選択の理由から、講義内容が受講者にとって有益であったことが読み取れる。また、バレーボールを専門としていない指導者からも同様の意見であったことから、指導者として参考になる内容であったと思われる。

質問項目2の2) 実習実技(レシーブ、トス、スパイク(3段攻撃))では、「学生が実際に動きを見せてくれたのでわかりやすかった」といった意見が多く、①とてもよかった②よかったが大多数の意見であった。これは、本学学生をデモンストレーターとして、受講者に目で見て分かるようににしたことが評価につながったと思われる。しかし、「あまりよくなかった」と回答した意見もあった。その理由は「もう少し受講者に実際に動いてもらった方がよかった」ということであった。こちらとしては、真夏の暑い体育館で身体を動かす

ことは、熱中症等の可能性も高いことから、今回の講習では基本的には見ていただきたかったのだが、少なからずそのような受講者もいることがわかった。また、「授業では難しいが、部活指導では活かせると思った」という意見もあった。少数意見ではあるが、教員免許更新講習の性格上、様々な分野(高等学校や中学校等)で教員をされている方が同時に受講しているので、専門的な指導法だけではなく、体育の授業としての指導法を中心にしてほしいと思っている受講者もいるであろう。このような意見が、同様の講習を続けていけば多くなってくることも考えられるため、今後の課題として検討していく必要性を感じた。

質問項目2の3) 講義(スパイクスイングにおける理論)では、①とてもよかった②よかったが大多数意見であった。これは、専門科目としてバレーボールを設定したこともあり、専門的な指導を行う上で必要な知識として、スパイクスイングに焦点を絞って行ったことが上記の結果となったのだと考えられる。また、学生時代は専門的に研究等を行うことができるが、教員として現場の仕事に就いたことでその時間を作れない人も多いと思われる。今回の講習がきっかけとなり、その必要性を感じてもらえれば、講習を行った意義があったと考える。

質問項目3(講習全体)では、自由記述とし、多くの意見が寄せられた。受講者それぞれの視点によって言い方は違うが、大半は受講内容が良かったという内容であった。しかし反対に、「初心者向けの内容で行ってほしい」「もう少し実践の時間がほしかった」という意見があった。今後、本学において教員免許更新講習を実施していくにあたり、これまでと同様の方法で実施すれば、また同じ意見が出ると思われる。少数意見ではあるが、このような意見に対処していくことも今後の検討課題である。

V まとめ

平成19年6月の改正教育職員免許法の成立により平成21年4月1日から教員免許更新制が導入された。

本学では文部科学省及び埼玉県教育委員会からの依頼もあり、本年度で 3 回目の教員免許更新講習を実施した。

本報告では、今年度（平成 24 年度）本学において設定した更新講習の中から、専門科目として実施したバレーボールを対象とし、更新講習終了後に受講者にアンケート調査を実施した。その結果から今後講習を実施していくにあたり、必要な資料を得ることを目的とした。

受講内容では、「とてもよかった」、「よかった」が多く意見であった。しかし、少数ではあったが「初心者向けの内容で行ってほしい」や「もう少し実践の時間がほしかった」との要望があった。

今後、本学で教員免許更新講習を行っていくうえで、「講習内容の検討を行う」か、あるいは受講者募集の段階で「受講対象者を明確にする」といったことが必要となると考えられる。

また、「講習内容の検討」を行ううえにおいても、専門科目においては、「専門性を強調し、高度の内容を実施していく」のか、「現場の授業での初心者向けの内容を中心とする」のかを考える必要がある。その「現場の授業での初心者向けの内容」の講習を行うにしても、「中学校」が対象なのか「高等学校」が対象なのかといったことも検討していく必要があると考えられる。

そして、本報告を含めてアンケート調査を過去 2 回実施しているので、来年度も実施を予定し、各年度における比較・検討も必要と考える。

本報告では、以上の点を検討する必要性を示唆する資料となった。

【参考文献】

- 1) 文部科学省ホームページ：教員免許更新講習